

## ◆ 今週のコメント

- ・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(男性, 60歳代)あります(第41週追加報告分)。症状は腹痛で, 推定感染経路は不明です。本年の累積報告数は12例になっています。
- ・ ウイルス性肝炎(B型)の報告が1例(男性, 20歳代)あります(第42週追加報告分)。症状は, 全身倦怠感・嘔吐・褐色尿・発熱・肝機能異常・黄疸です。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は性的接触(異性間)です。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は, 1.37(56例)で, 第30週(7月22日～7月28日)以降, 14週連続で過去5年平均値を上回っています。本年, 京都市衛生環境研究所で分離・検出した手足口病由来のウイルスは, すべてコクサッキーウイルスA6(CA6)で, 13例となっています。(10月31日現在)
- ・ 水痘の定点当たり報告数は0.61(25例)で, 前週(0.83, 34例)よりも減少していますが, 過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では, 2歳が8例(32.0%)で最も多く, 次いで, 3歳 7例(28.0%), 1歳 3例(12.0%)となっています。例年, 12月に向かって報告数が増加しますので, 今後の動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.05(43例)で, 前週 1.07(44例)とほぼ同じで, 第34週(8月19日～8月25日)以降, 10週連続で過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例(第41週追加分)【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類: ウイルス性肝炎(B型) 1例(第42週追加分)【1月以降の累積報告数 7例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.44	100
	② 手足口病	1.37	56
	③ RSウイルス感染症	1.05	43
	④ 水痘	0.61	25
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.51	21
眼科	流行性角結膜炎	1.00	10

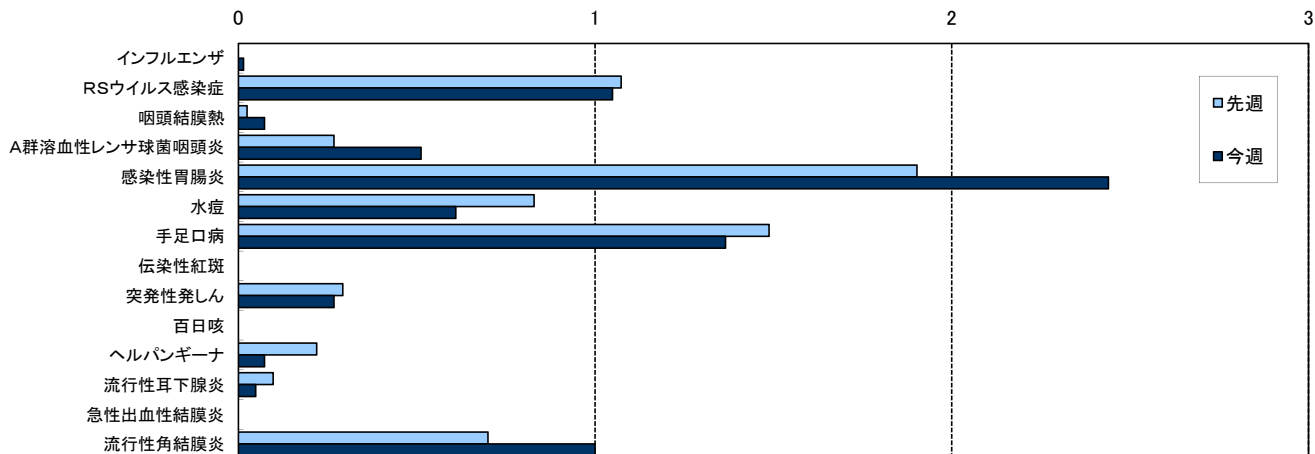
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは, 平成25年10月31日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

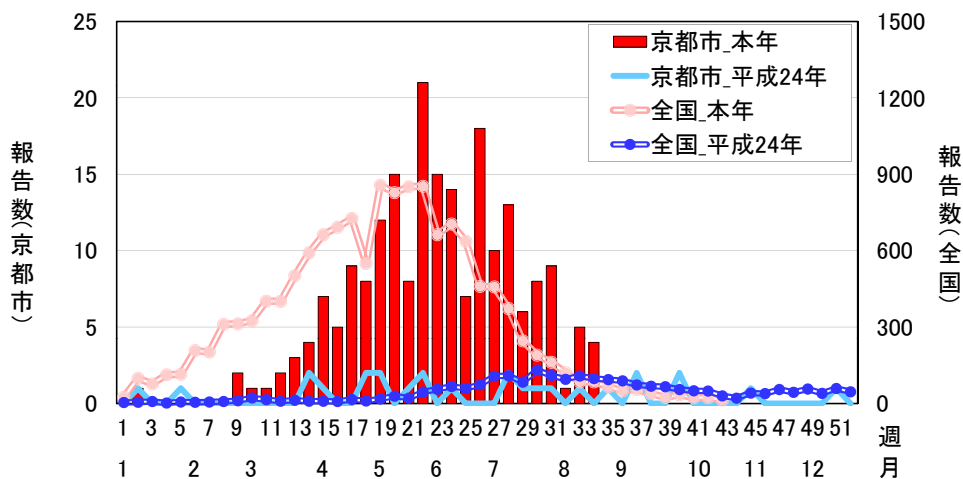
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第43週)と先週(第42週)の定点当たり報告数の比較



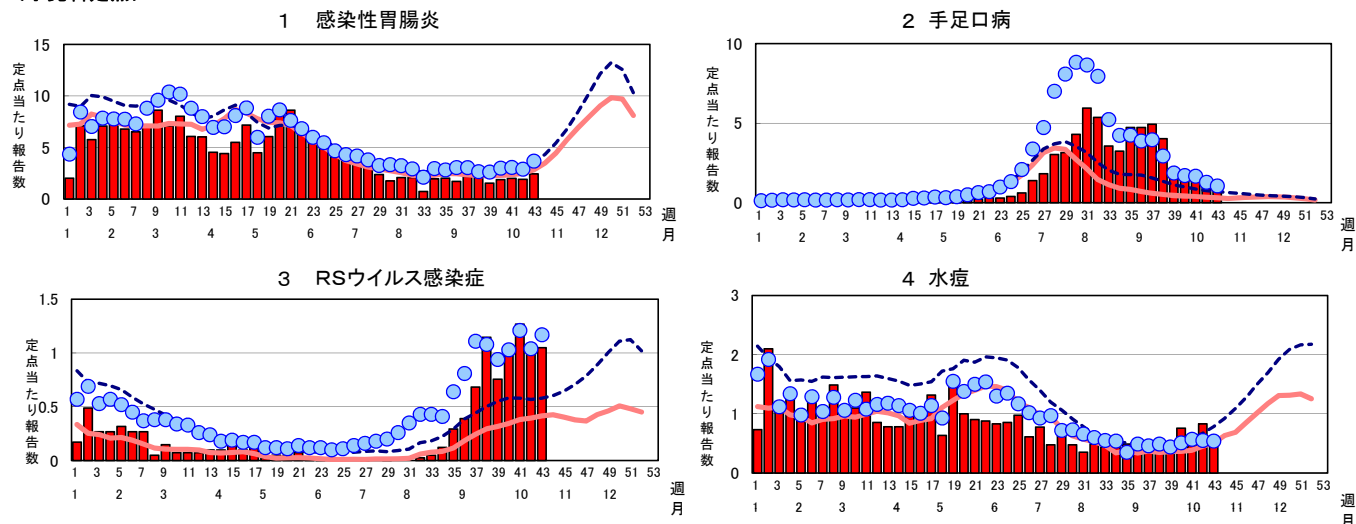
## 2 風しんの推移

今週の報告数(累積報告数) 平成25年10月31日現在	
京都市	0例 (209例)
京都府(京都市を除く)	0例 (112例)
近畿6府県	0例 (5221例)
全国	17例 (14171例)

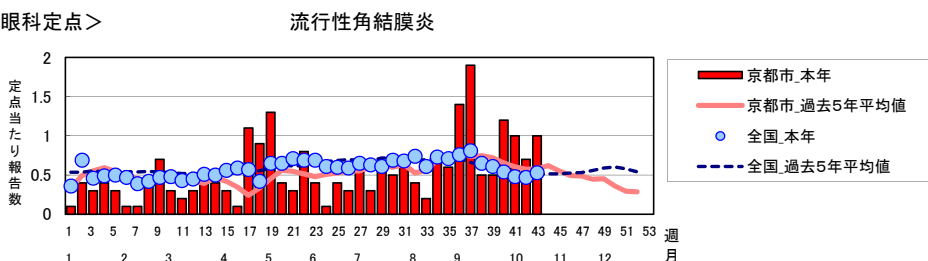


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



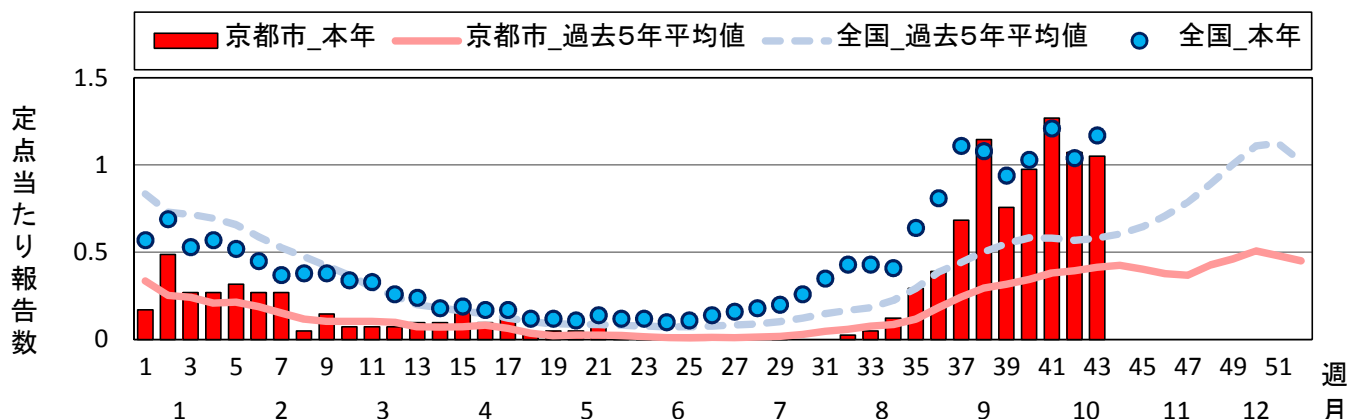
## 第43週(10月21日～10月27日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.05(43例)で、前週 1.07(44例)とほぼ同じで、第34週(8月19日～8月25日)以降、10週連続で過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多かった平成24年に次ぐ報告数となっています。全国でも、過去5年平均値を上回る状態が続いています。今後の動向にご注意ください。

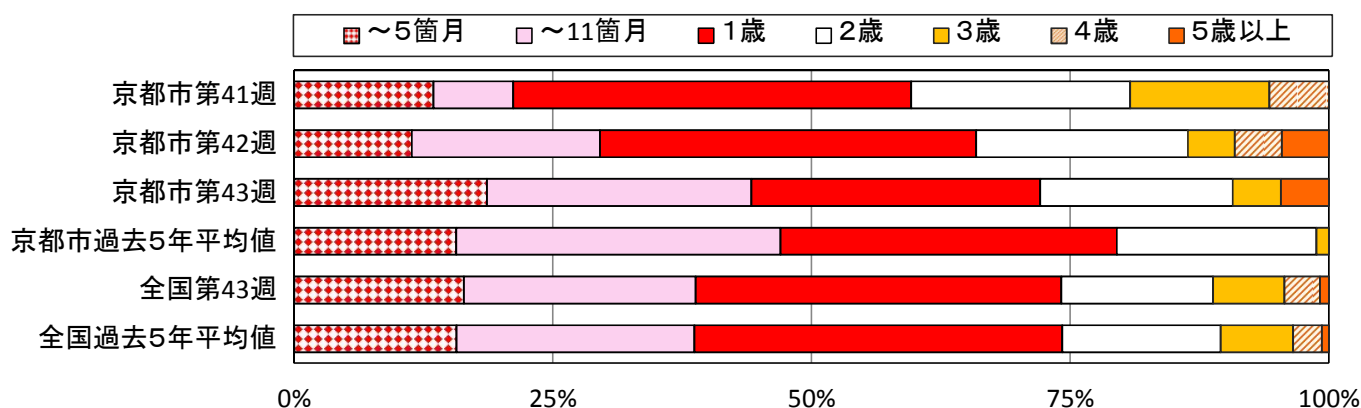
年齢階級別では、1歳が12例(27.9%)と最も多く、次いで6～11箇月 11例(25.6%)、0～5箇月及び2歳 各8例(18.6%)となっており、0～2歳が90.7%を占めています。

都道府県別では、九州・沖縄地方ではすべての県で前週より減少しているものの、47都道府県中35都道府県で前週よりも増加しています。近畿6府県においては、兵庫県を除く5府県で前週よりも増加しています。

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別割合の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

